

<教頭講話> 9月25日(月)

今日は、校長先生が不在なので、私からお話しさせていただきます。

学校祭も無事に終わりました。みなさん、どんな感想をもっていますか？特に1年生は初めての中学校の学校祭はどうだったでしょうか？小学校とのちがいを強く感じたことと思います。結果はともかく、どのブロックもブロック長やリーダーを中心に、本当によく取り組めたと思います。ブロックの活動を通して、1+1は2ではなくもっともっと大きな力になることがよく分かったのではないのでしょうか。合唱においてもパフォーマンスにおいても集団の力の素晴らしさを感じることができました。先生もたくさんの感動をみなさんからもらいました。この経験を、3年生はこれからの進路に、1・2年生は部活動や友人関係などに生かして、学校生活を充実したものにして欲しいと思います

さて、明日は9月26日です。何の日だと思いますか。分かる人は、生粋の弥富っ子ですね。今から58年前、1959年(昭和34年)の9月26日。台風15号が愛知県と三重県に大きな被害を与えました。「伊勢湾台風」です。

台風が午後6時過ぎに潮岬付近に上陸した時、中心気圧は925ヘクトパスカル、最大風速は50mだったそうです。さらにこの台風は、満潮と重なったことで伊勢湾に高潮を引き起こし、名古屋港では観測史上最高水位の3.45mを記録しました。防波堤を越えた海水は、町を一気に飲み込みました。夜に台風が通過したことで、高潮が重なったことで甚大な被害を被ることになりました。

この台風による死者・行方不明者は、全国で5,098人にのぼり、そのうち4,562人を愛知県と三重県が占めています。弥富市でも旧弥富町・十四山村合わせて、358人の死者・行方不明者が出ました。先生はまだ生まれていませんでしたが、先生の家族は当時港区の築地口に住んでいました。名古屋港のすぐ近くです。高潮で防波堤を越え、家の中に入ってきた水はあっという間に1.7mという高さまで来てしまったそうです。父と母は1歳になったばかりの兄を背負い、裏の2階建ての家の屋根に登って、辺り一面川のようになった景色におびえながら、暗闇と暴風と大雨の中屋根にしがみついていたと聞いています。父と母が必死で生き延びたおかげで、今私は存在しています。

また、当時生後10ヶ月だった校長先生は、弥富町の栄南学区に住んでいました。もちろんご自身に記憶はないそうですが、ヘリコプターで救助されたそうです。

この弥富という場所は、58年前に伊勢湾台風でこんな甚大な被害を受け、多くの大切な命が奪われた所であることをどうか忘れないで下さい。おじいさんやおばあさんがお家にみえる人は、是非当時の話を聞いてみて下さい。その命を守る行動のおかげで、みなさんのご両親、そしてここにいる皆さんが今存在できていることを感じると思います。

みなさんが住んでいる弥富市は、海拔0メートル地帯です。水の被害を受けやすい地域だということをしっかり理解し、災害時の万が一の備えや行動について考えられると良いと思います。